

## 令和3年度 第5回 都田南小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年2月22日（火） 15時30分から17時00分まで
- 2 開催場所 都田南小学校 ふれあいルーム
- 3 出席委員 馬淵 信夫、神間 智博、石田 由紀子、長谷川 卓人、牧田 景子
- 4 欠席委員 山下 泰弘
- 5 事務局 山下 幹夫、大石 智香子、足立幸作、谷野 文彦、服部 美保
- 6 傍聴者 0人
- 7 協議事項
  - (1) 学校評価の報告
  - (2) 令和4年度の経営の重点(経営方針)
  - (3) 委員からの意見の集約
  - (4) 学校運営協議会の自己評価
- 8 報告
  - (1) アプリについて
  - (2) 夢育やらまいか事業報告
- 9 その他
- 10 会議録作成者 事務局 服部美保
- 11 会議記録

司会の大石から委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

### (1) 学校評価の報告

足立教務主任より、令和3年度の学校評価について説明があった。

- ・令和3年度はICT教育の飛躍の一年だった。(重点目標かしこく)
- ・鳴門教育大学の協力し、他者理解についての学びを深めた。(重点目標やさしく)
- ・本校は設立当初から健康教育に実績を重ねている。オリパラ教育の推進や体力アップコンテストの挑戦などの実施。(重点目標元気よく)
- ・アンケートの結果を来年度の教育計画に反映させていきたい。

### (2) 令和4年度の経営の重点(経営方針)

山下校長より、令和4年度の経営の重点(経営方針)について、別紙資料に基づき説明があった。

- ・本校の特徴として、この地域の「開拓者魂」を継承していくことが大きな柱となる。激動の時代を生きる力を育成することの必要性を感じている。キャッチフレーズは「継承と挑戦」。学校教育目標は今年度と変わらず「進んで考え 共に学び 未来を拓く都南っ子」とする。CSづくりについては、ペースができてきたので、さらに進化させ地域と保護者と学校をつなぐ新たなシステムを作っていきたい。(あせらず、じっくり、ゆっくと)

令和4年度の経営の重点(経営方針)については、全員異議なくこれを承認した。

### (3) 委員からの意見の集約

議長の牧田委員から、令和4年度の経営方針について委員に意見を求めたところ、委員から以下の発言があった。

- ・来年度職員の異動で担当者が変わり、学校の経営方針が変わると言うことはあるのか。  
(長谷川委員)
- ・今日のこの会議で承認された内容は来年度に引き継がれるため、そのような心配はない。(校長)
- ・教科担任制について、現在も導入されている教科があるが、先生によって偏りがあるように感じる。家庭科などはボランティアに入ってもらった方が良いと思う。どのクラスにいても同じ密度の授業が受けられるように足並みを揃えてほしいと思う。(牧田委員)
- ・実技教科については免許を持っている教員に授業をお願いしたいが、教員の配置のバランスがとれていないのが現状である。専科教員の数を増やそうという動きもある。免許制度の改革も含めて考えていかなければいけない問題でもある。(校長)
- ・どのクラスも同じ指導ができると良いが、配置などで厳しいのが現状である。今年度はボランティアさんに迷惑を掛けてしまった。同じ学年での足並みを揃えたいと思っている。(教頭)
- ・地域を巻き込んだ都南っ子まつりを行いたい、ということだが、都田のカプロジェクトの組織はフェイスブック上で繋がっていて、今のところ顔が見えない団体となっている。  
チラシを配るだけでは反応がなく、最終的には特定の人に具体的な話を持って初めて自分のこととして考えてくれる。自転車教室もそのようにアポをとって決めた。一組織として動いているわけではないので、その辺りを団体の特色として理解してほしい(神間委員)
- ・これまでは、学校のために地域が協力するというイメージが強かったと思う。特にCSを知らない人にとってはそう感じると思う。来年度は地域の人々が喜ぶ何かを子供たちができると良いと思う。(石田委員)
- ・目指しているのは学校だけでなく地域にとっても良い関係。(校長)
- ・地域に参加する活動自体が減っているのが現状。(石田委員)
- ・以前は新都田で地域の運動会をやっていたことがある。自治会間でもめたことがあったが、学校はいろいろな自治会の子が集まっているから、こういった自治会の問題を解決できるのは学校か次の世代だと思う。大切なのは子供を通じて地域をつなげていくこと。次の世代にバトンパスができれば良いと思う。(神間委員)
- ・6年生に地域の一員として何ができるか問いかけてみた。まず、身近なこととして隣に住んでいる人がどんな人か知っているか聞いてみた。知っている子もいれば知らない子もいた。習い事などで忙しかったり、コロナの影響で関わりが減ったりしている影響かもしれないが、「地域の人をまず知ることが一員になる一つの取り組みだよ。」と話をした。自転車教室に協力してくれる地域の人もたくさんいて、教室に参加することでそういう人たちを知ることができる。子供たちは子供なりに考えていて、地域のために役に立ちたいと考えているようだ。ただ、具体的にどうやったら良いのかわ

からないので、そこを学校やボランティアアプリで支えていけたら良いと思う。

(教頭)

- ・地域と子供をつなぐには学校の持つ役割は大きいと考えている。先生主導でなく子供が地域に出て行って地域のために役立ってほしいと思う。(足立教務主任)

#### (4) 学校運営協議会の自己評価

学校運営協議会の自己評価についてCS担当の谷野教諭から資料の説明があった。

### 報告

#### (1) アプリについて

長谷川委員より、ボランティア登録アプリについて進捗状況の報告があった。

- ① 2月6日にアプリ版からWEB版への移行を完了した。詳細ページをクリックするとWEBページに行くようになっている。また、先日開催された「はままつインキュベーションプログラム」では入賞は逃したものの、意義のある取り組みとして認められた。属人性が高く再現性が課題との指摘もいただいた。

委員からは、以下の発言があった。

- ・地域の活動には保護者に納得してもらって子供を送り出してもらうことが課題。  
(教頭)
- ・情報過多な時代だけに、うまく見せることが必要だと思う。タイトルで引きつけるといったような工夫など。(神間委員)
- ・ユーザー登録について、当初は信頼できる人のみとしていたが、現在はどうか。  
(石田委員)
- ・地域に広がった場合これからどこまでを承認するか、加減が難しい。(牧田委員)
- ・ルール作りはこれからの課題になってくる。(教頭)
- ・地域からの要望と学校からの要望の両方を一人でやっていて負担を感じている。これからもっと大変になると思う。地域からの要望を受け止める人材が一人必要だと思う。(教頭)
- ・協働センターの職員に担ってもらうのも良いと思う。(校長)
- ・保護者の目で良いと感じることしか子供に情報がいかないのが問題だと思う。子供に直接情報が伝われば、子供が主体になって参加できると思う。(牧田委員)
- ・子供が見に来る掲示板がほしいと思う。(校長)
- ・地域の回覧板は子どもは見ない。例えば地域の草刈りの日程を学校の掲示板に貼ることはすぐできると思う。地域にとってもWINになる。(牧田委員)

#### (2) 夢育やらまいか事業報告

教頭より夢育やらまいか事業について年度末の報告があった。

### その他報告事項等

本校創立60周年の記念として、昨年撮影した航空写真入りの下敷きを作成した。委員に配布した。